



# 2023年横浜港

# ビッグニュース

横浜市港湾局

## 国際競争力強化への取組

### 1-3月 本牧ふ頭に15,000TEU型の超大型コンテナ船が初入港、国内唯一の北米東岸航路が新たに就航

1月に本牧ふ頭に寄港したコンテナ船で過去最大となるCMA CGM社の「ARGENTINA」(全長約366m、船幅51m、最大積載数15,074TEU)が、3月には北米東岸航路の第1船「QINGDAO」(全長約354m、船幅約46m、最大積載数10,106TEU)が本牧ふ頭D4コンテナターミナルに初入港しました。



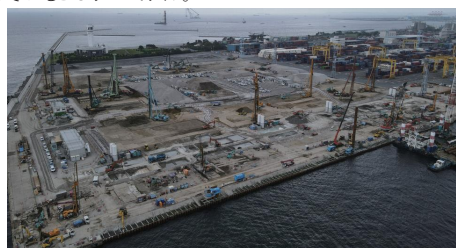
### 8-11月 横浜港セミナー開催(宇都宮・仙台)

横浜川崎国際港湾株式会社と連携し、宇都宮、仙台にて横浜港セミナーを開催しました。また、茨城県主催のセミナーにおいても横浜港のポートセールスを実施しました。

### 11月 本牧ふ頭D5コンテナターミナル再整備の推進

超大型コンテナ船に対応した最新鋭のコンテナターミナルとして再整備を進めているD5ターミナル。

ターミナル拡張用地において新管理棟の建設工事に着手するなど、再整備が着実に進んでいます。



### 6月 埋立が進む新本牧ふ頭

2021年10月の埋立開始以降、リニア中央新幹線や道路・上下水・河川等の市内公共工事等の建設発生土を今年9月末時点で約165万㎡、25mプール約2800杯分受け入れ、新本牧ふ頭の埋立が着実に進んでいます。



### 6-11月 国際フィーダー航路網の拡充・相次ぐ内航コンテナ船の就航

6月に井本商運株式会社の新造船「きそ」(最大積載数1,096TEU)、11月に鈴与海運株式会社の新造船「清浦丸」(最大積載数402TEU)が、横浜港に初入港し、歓迎セレモニーを行いました。



※ TEU：20フィートで換算したコンテナ個数

### 9月 「飛鳥Ⅲ」の船籍が横浜港に決定

郵船クルーズ株式会社が建造を進めている新造クルーズ船「飛鳥Ⅲ」について誘致活動を進め、船籍が横浜港に決定しました。「飛鳥Ⅲ」はカーボンニュートラルをコンセプトとして、日本のクルーズ船で初めてLNG燃料や陸上電力受電装置を採用しており、2025年夏頃の就航を予定しています。



写真提供：郵船クルーズ株式会社

### 9月 帆船日本丸総帆展帆400回達成

1985年の第一回総帆展帆から38年、9月23日には総帆展帆400回を達成しました。展帆ボランティアの皆様への感謝を込めて、10月9日に「国指定重要文化財帆船日本丸 総帆展帆400回記念式典」が開催されました。



## カーボンニュートラルポートの形成

### 2-7月 臨海部の脱炭素化に向けた取組の推進

臨海部の脱炭素化を進めるため、横浜港脱炭素化推進臨海部事業所協議会及び港湾物流協議会を開催しました。また、横浜脱炭素イノベーション協議会を設立し、横浜が目指す脱炭素イノベーションの方向性を発表しました。

### 5-8月 カーボンニュートラルポート形成に向けた産学官連携の取組

CNPの形成に向けて、電気推進船やアンモニア・水素を燃料とする次世代燃料船の普及促進、蓄電池や電気運搬船の利用検討、海中ソーラー発電の実証実験などについて、産学官で連携して取組を進めました。



「アンモニア燃料タンクポート(イメージ)」



水素燃料旅客船「Hydro BINGO」



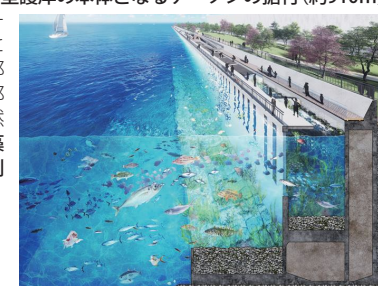
電気推進タグボート「大河」



海中ソーラー発電実験(神奈川大)

### 6月 新本牧ふ頭に生物共生型護岸本体ケーソン据付完了

6月に生物共生型護岸の本体となるケーソンの据付(約910m)が全て完了しました。ケーソンの壁面に波を穏やかにするスリットを設け、上部は日が差し込む構造、内部空間に自然石を敷いて自然の岩礁を再現する等、海藻や海生生物が育つ環境を創出しています。



### 7月 本牧ふ頭に15,000TEU型の超大型LNG燃料コンテナ船が初入港

CMA CGM社の超大型LNG燃料コンテナ船「LIBERTY」(全長約366m、船幅51m、最大積載数14,806TEU)が、本牧ふ頭D4コンテナターミナルに初入港しました。



写真提供：国土交通省 関東地方整備局横浜港湾事務所

## 観光と賑わいの港

### 3-4月 国際クルーズが本格的に再開、国内初の5隻同時着岸

3月10日、3年ぶりに外国船による国際クルーズが再開されました。4月26日には、日本に寄港する最大・最新のクルーズ船MSC「BELLISSIMA」が初入港し、4月28日には、大黒ふ頭に2隻、大さん橋に2隻、新港ふ頭に1隻、合計5隻のクルーズ船が日本で初めて同時に着岸するなど、数多くのクルーズ船が入港しています。



MSC「BELLISSIMA」

### 4月 金沢水際線緑地供用開始

2019年の台風で甚大な被害を受けた金沢水際線緑地は、災害に強く、安心して散策や釣りができる場所に生まれ変わりました。護岸上部の遊歩道は東京湾や房総半島を一望でき、昇る朝日も圧巻です。



### 7-10月 都心臨海部水際線の賑わいづくり BAY WALK MARKETを開催



新港ふ頭の民間事業者と連携し、BAY WALK MARKETを開催しました。臨港パークから山下公園まで、約5kmにわたる水際線のエリアで同時期に開催される他のイベントとも連携して広報を行い、10月は延べ約24万人以上の来場者がありました。

## 山下ふ頭の再開発

### 5-8月 第二回市民意見募集等の結果公表、山下ふ頭再開発検討委員会 学識者会合を開催

2021年から23年にかけて2度の市民意見募集等を行い、1万件を超えるご意見、18件の事業者提案をいただき、5月には2回目の結果を分析し公表しました。8、11月には、これらを踏まえた新たな事業計画策定に向け、山下ふ頭再開発検討委員会学識者会合を開催しました。透明性の高い委員会となるよう、傍聴に加えてインターネット配信を行い、視聴した皆様からご意見をいただくなど、委員会の検討に市民意見を反映していきます。

